

宮津市学力向上プラン

1 本プランの位置付け

宮津市教育大綱・教育振興基本計画における学校教育の振興に係る基本方針「明日の宮津を創り上げる人間性豊かな子どもの育成」を踏まえ、児童生徒の学力向上を図るため、小中一貫教育を通して学校が重点的に取り組むべき教育施策を明らかにするもの。

2 本プランの期間

本プランの期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とする。

3 目標 「質の高い学力の充実・向上」

- (1) 基礎・基本の徹底
- (2) 論理的思考力や表現力の育成
- (3) ICTを活用した学習意欲の喚起、個別最適な学びと協働的な学びの実現

質の高い学力とは

- 基礎的な知識及び技能
- 基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む意欲・態度

4 目標を達成するための重点

- (1) 教科指導(授業)において、学習のめあての提示、振り返りなどを明確にして、基礎・基本の徹底を図り、系統的・継続的な指導を進める。
- (2) 社会の変化に対応し、自ら課題を解決していくため、語彙力に支えられた論理的思考力や表現力を育成する。
- (3) 主体的・対話的な学習活動を進め、学級経営を基盤とした授業の確立を図る。
- (4) 認知能力と非認知能力の一体的な育成を図る。
- (5) 日常的なICT活用による学習意欲の喚起を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた学習機会を創出する。

5 学力向上を図る主な取組

- (1) 基礎・基本の徹底

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、身に付けた知識・技能を基に情報を収集したり、他者と協働的に課題解決したりできるよう授業改善を進める。

ア 単元を通した「身に付けたい力」の明確化

(目標と指導と評価の一体化)

イ 算数・数学における分かる授業づくり

一人一人の習熟度に合わせた「算数・数学学び直しドリル」を導入し、学習状況の確認と個に応じた指導を進める。

ウ (ICTを活用した)算数学び定着サポーターの配置

小学校算数科における学力の定着と向上を図るため、(ICTを活用した)算数学び定着サポーターを2名配置し、各小学校に派遣する。一人一人の児童が自己の能力等に応じた個別最適な学びを受けられるよう授業中の個別指導やICT活用の個別学習ドリルを用いた個別支援を行う。

【内容】

・1日1校を基本とし、算数授業での個別指導に当たるとともに、授業者と学習のねらい達成を図る。また、「算数・数学学び直しドリル」を活用した学習場面で、個々の児童の課題に応じた適切な支援を行う。

・2名の分担は、宮津小・栗田小、吉津小・府中小・日置小・養老小とする。

エ 小中一貫教育カリキュラムの活用

市モデルカリキュラム及び中学校区での教科等カリキュラムを活用し、10年間を見通した系統的な教育活動を進める。

オ 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善

(2) 論理的思考力や表現力の育成

身に付けた知識・技能をどのように使うかという視点から、思考力・判断力・表現力を高める言語活動を充実させ、論理的思考力や表現力の基盤である言語を使いこなす能力を高める。

ア すべての教科等での論理的思考力や表現力の育成

イ 国語科を中心とした語彙力の育成と読書活動の充実

ウ 語彙力向上を目指す「漢字能力検定」の活用

論理的思考力や表現力の基礎となる語彙力を向上させるため、「漢字能力検定」を活用して国語科教育を推進する。

漢字学習を通して、全教科で取り組む語彙力、表現力の向上につなげる。

小中一貫教育における前・中期において、小学校4・6年生全児童が受検し、学習の定着を検証するとともに、それぞれ合格率8割を目標とする。

【内容】

① 受検学年と検定級

・前期(小学4年生)・・・7級(小学4年修了程度)

・中期(小学6年生)・・・5級(小学6年修了程度)

※児童個々の取得級や希望により、指定した検定級以外の級を受検することを可と

する。ただし、指定した検定級以上の級を受検する場合は、指定検定級合格者であることを原則とする。

8級(小学3年修了程度)、6級(小学5年修了程度)、
4級(中学在学程度)、3級(中学卒業程度)

② 検定日

・各学校で決定し、実施する。

③ 検定料(団体受検)補助

・検定料は、全額を補助する。

エ 英語力を高める「英語検定」の活用

英語活動、英語科の学習に対する意欲の向上、主体的な学習態度の育成を図るため、「英語検定」を活用する。

英語力向上を踏まえ、「英語検定」を活用した学習を日々の英語教育に取り入れる。

小中一貫教育における中・後期において、中学1・3年生全生徒が受検し、学習の定着を検証するとともに、それぞれ合格率8割を目標とする。

【内容】

① 受検学年と検定級

・中期(中学1年生)・・・5級(中学初級程度)

・後期(中学3年生)・・・4級(中学中級程度)

※生徒個々の取得級や希望により、指定した検定級以外の級を受検することを可とする。ただし、指定した検定級以上の級を受検する場合は、指定検定級合格者であることを原則とする。

3級(中学卒業程度)、準2級(高校中級程度)、2級(高校卒業程度)

② 検定日

・各学校で決定し、実施する。

・検定内容

・3級以上＝筆記、リスニング、面接

・4・5級＝筆記、リスニング

③ 検定料(団体受検)補助

・検定料は、全額を補助する。

オ 英語活動・英語科の授業づくりとコミュニケーション力の向上

英語活動及び英語科の授業実践力向上のため、研修会(授業研究会を含む)を充実し、教員個々の指導力を高めるとともに、英語によるコミュニケーション力を向上させる授業改善や体験活動を推進する。

【内容】

・専科教員や中学校教諭等の活用により、小学校教員の指導力向上を図る。

・宮津市教育委員会と京都府立宮津高等学校による英語教育充実連携協働プロジェクトにおける小中学校と高等学校の連携を生かした授業研究を充実する。

カ 就学前での語彙力向上

「保幼小接続カリキュラム」及び「国語カリキュラム」を基に、就学前での「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育成する。

【内容】

・宮津市立図書館を活用し、読み聞かせ、絵本等図書へのふれあいを進める。

(3) ICTを活用した学習意欲の喚起、個別最適な学びと協働的な学びの実現

学習規律を確立し、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育てるとともに、ICTを活用したドリル学習によって学ぶ楽しさや分かる喜びを実感でき、努力し続けようとする意欲を養う。また、認知能力と非認知能力の一体的な育成を進めるため、学習活動の充実を図る。さらに、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた学習機会を提供する。

ア 「ふるさとみやづ学」の実践

ふるさと宮津への愛と誇りを持ち、まちづくりに貢献できる児童生徒の育成を図ることを目的に、学院・4小学校連携での系統性のある計画と実践を進める。

「総合的な学習の時間」を中心に、宮津市に特化した学習内容をカリキュラム化し、学院等で各学年につながるの取組とする。

前期での副読本「わたしたちのまち宮津市」活用、「知恵問答宮津ふるさと子ども検定」、後期での「ふるさと提言」を充実させ、地域への愛着を深め、地域貢献の意識を高める。

イ ICT機器を活用した授業改善と学習意欲の喚起

ICTを効果的に活用し、教員が学習内容をわかりやすく説明することにより、児童生徒の学習への興味関心や学習効果を高める。また、児童生徒が意欲的に調査・発表するなど、主体的・対話的な学びを深めるため、ICTの活用を進める。

さらに、児童生徒一人一人が自己の能力等に応じた個別最適な学びに向けて、1人1台タブレット端末の運用を踏まえ、ICT活用の個別学習ドリルを用いた学習支援を行う。

ウ 意欲を引き出す家庭学習への指導と支援、啓発

「家庭学習の手引き」や学習ドリルを活用し、家庭学習の具体的な内容や学習方法について指導・支援するとともに、望ましい生活習慣について啓発を行う。

エ 家庭と連携した学習習慣の定着

「小中家庭学習充実週間」等、家庭との連携による学習習慣の定着を図り、目的意識や学習意欲の向上を進める。

オ 中学校教員による乗入授業の推進

質の高い学力の充実のため、小学校の授業に教科指導の専門性を持った中学校教員が指導・支援を行う。また、小学校教員の指導力向上を支援していく取組の深化を図り、小中学校協働での授業改善を進める。

併せて、小学校高学年(中期)における一部教科担任制による指導を実施する。